

自然遊学館だより

Vol.107

2024.2.1



左列 上段から
・近木川のアユ調べ
・蕎原の森で間伐体験
・自然遊学館 30 周年記念講演会
・大阪湾一斉生物調査

中央列 上段から
・貝塚ボーイスカウト出前講座
・近木川カニ釣り
・せんごくの杜昆虫調べ～採集
・30 周年記念地曳網生物同定

右列 上段から
・バードウォッチング
・大阪湾ヒラメ放流
・子ども博士育成事業
・七草粥、七草採集



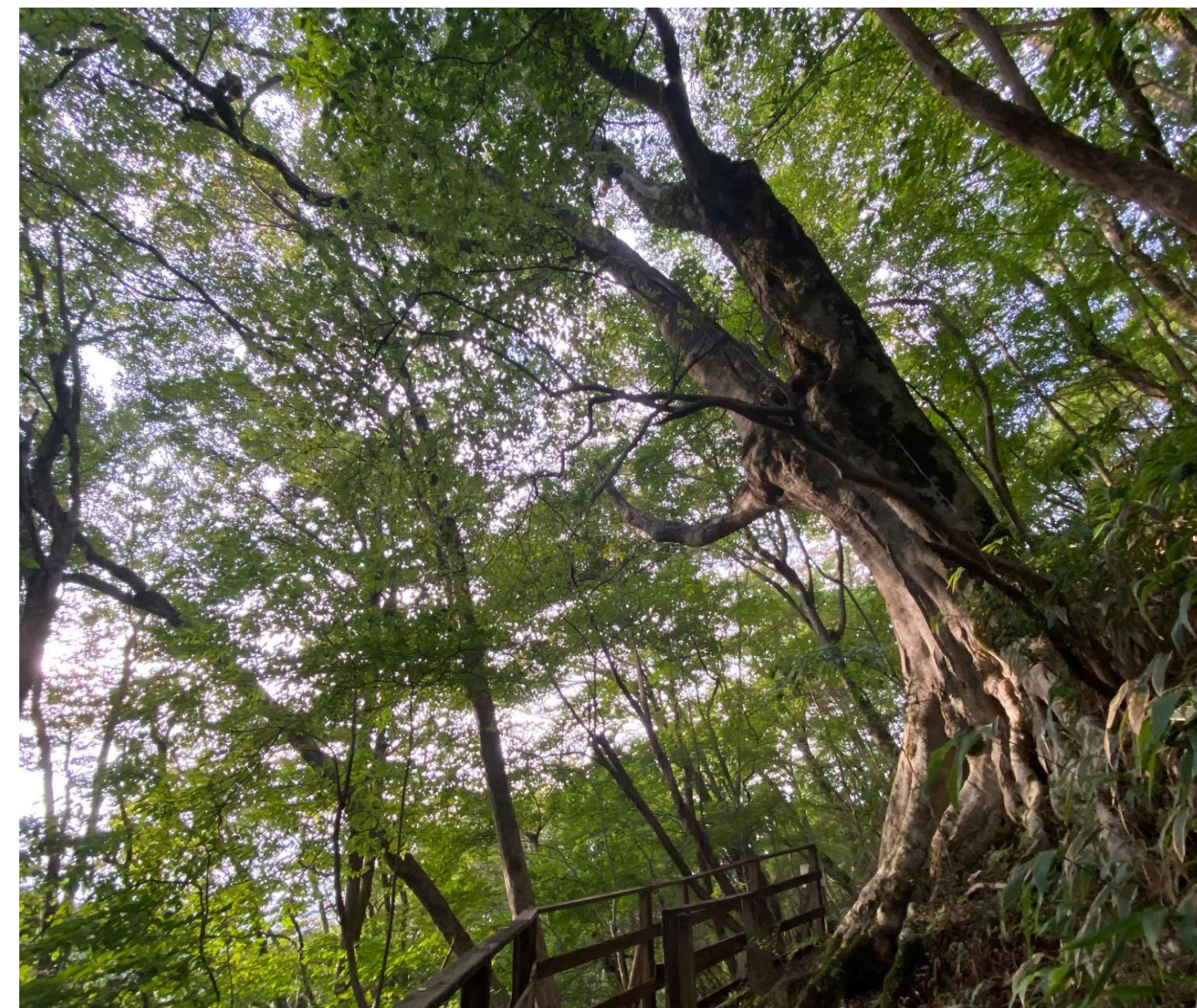
春に向かって土の中の生きもの ^{うごめ} 蠢きを感じられるようになってきました。この号より、これまで皆様にお届けしてしました『自然遊学館だより』を新たなスタイルでお届けします。従来モノクロで印刷してしました生物の写真をカラー化し、生物の特徴をできるだけ正確にご覧いただけるように、加えて記述を簡潔にしました。その上で調査報告の詳細については研究報告書『貝塚の自然』に一括して掲載します。改正博物館法には新たに博物館として目指す役割が示されています。新たな役割を取り入れつつ、市民の皆様からご意見をいただきながら、貝塚を中心とした自然により関心と興味、そして新しい学びをもっといただける博物館を目指してまいります。



しぜん 遊 がく かん
貝塚市立 自然遊学館



貝塚市立自然遊学館
〒597-0091 大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1
TEL:072-431-8457



和泉葛城山のブナ林は、1923 年に国指定天然記念物となってから 100 年を迎えています。現在では、直径 30cm を超えるブナの本数は 200 本程度であり、指定当時の記録とされるものと比較すると、当時の 1 割程度しか生息していないこととなります。

実際、近年の調査記録によると、天然記念物エリアのブナの中でも、貝塚市側にあるブナにおいて、胸高直径が 30cm 以上のもので 5～6 本、空洞があったり、枯れかかっているものがある状況となっています。

近木川汽水ワンドで見つけた鳥

令和5年 10 月9日、近木川汽水ワンドで脚に釣り糸のような物が巻き付いた鳥（キアシシギ）を見つけました。釣り糸が絡まった所から先が太くなり、^{あしゆび} 趾 もくくられているようです。どうにかエサは採れているようですが、時折り両脚に釣り糸が絡まりとても心配です。

撮影を続けていると、急に私の方に飛んできて後ろ2 m位に降り立ちました。こちらを気にするようなそぶりを見せ、暫くその場にとどまっていたが私の移動（遠巻きに階段を上った）にともない、飛び去りました。人間のいる方にわざわざ飛んできて、留まるなんてありえないことだと思います。脚の釣り糸を取ってほしかったのでしょうか。

私も魚釣りをしますが、釣り場に釣り針や釣り糸など残さぬよう気を付けています。これまで釣り糸が絡みついて命を落とす鳥がいると話やニュースなどでは聞いていました。無責任な人間の行いが生き物の命を奪うことになるということを実際に目の当たりにして哀しみと自戒の念に苛まれました。



釣り糸が絡まった部位から先が太くなり^{あしゆび} 趾 もくくられている



現時点ではエサは採れている



ワンドの干潟から飛んできて私のすぐ後ろに降り立ちしばらくその場に留まった



時折り、両脚に釣り糸が絡まる

泉佐野市 児嶋 康成



せんごくの杜で
ヒメカマキリモドキを発見

2023年7月15日、せんごくの杜の夜間採集時に視認でヒメカマキリモドキを採りました。自然遊学館の記録としては、昨年 of 蕎原での採集以来の2個体目です。

ヒメカマキリモドキとはアミメカゲロウ目の昆虫で、体には茶褐色（または黒褐色）と黄色の縞模様が入っており、蜂に似て見えます。体の大きさは8ミリ～14ミリほどで、雑木林の林縁などで見られます。前脚はカマキリに似た鎌のような形状で、頭部もカマキリに似ています。ヒメカマキリモドキは過変態の昆虫で、幼虫はハシリグモやコマチグモなどの卵嚢に寄生し、その中の卵を食べて成長します。その後、卵嚢内で蛹となり羽化します。

これまで和泉葛城山などの標高が高い林縁でしか採れていませんでしたが、せんごくの杜のような平地の林内にも生息していることがわかりました。せんごくの杜はクモ類が多く生息しており、環境が整えば平地でもカマキリモドキは生きていけるのだらうと思います。せんごくの杜にはハシリグモの仲間がたくさんいたので、次は本当にそのようなクモに寄生するのか確かめてみたいと思います。